快適なくらし

木の家が持つ魅力をチェック。

仁淀の木と人とお茶、人が集まる憩いの空間

天井の梁の間に渡した鳥毛棒（※）は、実際に秋葉まつりで使用されたもの。岸本社長は2014年まで鳥毛ひねりの大役を担った。

香炉の下から火を当てると燻され、茶葉のいい香りが立ちのぼる。

争奪戦になるほど大人気だというテラス席。四季折々、美しい風景を楽しめる。

地域の木材でつくる。

高知市から車で約1時間半。国道33号沿いの仁淀川町鷲ノ巣に、外壁板の黒色と建具や軒裏の白木のコントラストが印象的な建物があります。沢渡集落で作られるお茶や、お茶を生かしたスイーツなどを提供するカフェ「茶農家の店 あすなろ」です。お茶を通じた地域おこしを目指す企業「ビバ沢渡」の社長である岸本憲明さんが奥様の実佳さんと共に「沢渡の美しい茶畑の風景を絶やしたくない。」という想いを込め、2018年3月にオープン。ご夫妻が目指したのは、仁淀川町産の木をふんだんに使って建てられた約110平方メートルのこの木造平屋を、地域をつなぐ仁淀の拠点にすることでした。

店内に入ると、床、柱、梁、テーブルや椅子はすべて木。奥の大きな窓から燦燦と差し込む自然光を木の色が反射して、なんとも明るい空間が目の前に広がります。客席は約20席。テラス席もあり、大渡ダム湖畔や茶畑などの景観を楽しめます。

心も体も暖かく。

この辺りは、冬に雪が降ることも珍しくない地域。この取材も1月の冷え込みの厳しい日だったにも関わらず、木材は他の素材と比べて保温効果が高いため、室内はとても暖かく保たれています。さらに、木の優しい色を見ているだけでなんだかぬくもりを感じます。「冬でもこの床を裸足で歩き回るお子さんもいます（笑）。木は柔らかく、肌ざわりが優しくて気持ちがいいんでしょうね」。

ここは、四季を通じて心も体も温めてくれる場所。「この地域だからこそ」「その季節だからこそ」をお客様に感じて帰ってほしいと実佳さん。その1つが、店舗周囲に植えられたお茶の木。春には新芽を摘んで天ぷらにし、お客様に提供します。

仁淀の魅力をたっぷり。

「仁淀の茶畑の将来がこの肩にズシッと（笑）。すごいプレッシャーですが、誰かがやらねば」。そんな岸本社長の原動力は、「仁淀のお茶と伝統を次代へつなぎたい。そのために、地域の人たちが大事に育てた茶製品やこの町のことをもっと知ってもらいたい。」という思いでした。

「茶農家の店あすなろ」がオープンするやいなや、訪れたのは1日約300人のお客さん。「スーパーもコンビニも高校もない地域に?!」。これをきっかけに、町民の気持ちはグッと上向いたといいます。

仁淀の木の空間で、仁淀のお茶を。岸本社長の地域への思いが詰まった「茶農家の店 あすなろ」には、今日もたくさんの人が訪れます。

（※）秋葉まつりの見どころの一つが、長さ6メートル以上の鳥毛棒を10メートル以上離れた2人が投げ合う鳥毛ひねり。

岸本さんの経験から 木の家づくりQ&A

Q 使用した木材は？
A 100%県産材。土台と柱はヒノキ、梁と内外装材はスギです。

Q 活用した補助金は？
A 高知県産業振興推進総合支援事業費補助金と仁淀川町地域づくり事業補助金を使用しました。

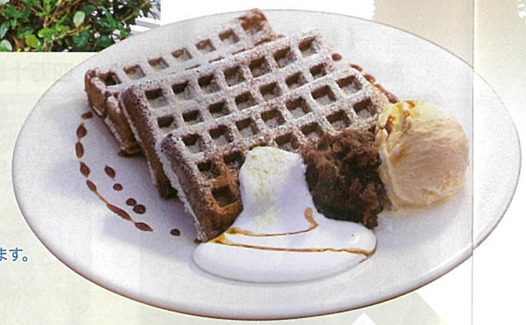
Q 建築士は？
A エニシ建築設計事務所の江西さんです。

Q 完成時の感想は？
A 木をたくさん使った素敵な建物。思い通りの出来あがりでした。

Q 周りの反応は？
A ここに来ると癒されると言っていただけます。

高知市で大工をしていた岸本社長は、家族とともに仁淀川町に移住し、茶づくりの道へ。

茶農家の店 あすなろ
住／仁淀川町鷲ノ巣224-6
TEL／0889・36・0188
営／10:00～16:00（L.O 15:30）
冬季営業／11:00～16:00（L.O 15:30）
休／木曜
冬季定休／木曜・金曜・年末年始
※12月～3月中旬は冬季営業時間となっています。
https://www.asunaro-cafe.com



茶のパウダーを使ったワッフルやスムージー、茶を練り込んだうどんなど、沢渡茶の魅力をたっぷり味わえるメニューが揃う。

この日の取材の様子はこちらから
YouTubeチャンネル
森林環境情報誌 もりりん